

2019年3月14日(木) 笹川スポーツ財団
第8回スポーツアカデミー2018

ドイツに学ぶ 地域スポーツの理想形



ドイツオリンピックスポーツ連盟・ヘッセン州・ニュルンベルク市の現状とは

スポーツくじ

toto
FOR ALL SPORTS OF JAPAN

BIG

ドイツと新町スポーツクラブ



スポーツ少年団が核だったからこそできた継続的人材育成



地域で必要な人材を地域で育成

- ★ 地域愛があるから自然とボランティア活動している
- ★ 幼児から大人世代まで、青少年世代が交流することで自然と身に付く「コミュニケーションスキル」
- ★ 医師・看護師・教師等の人に関わる職業に就いているひとが多い
- ★ クラブで育ってクラブで活動している

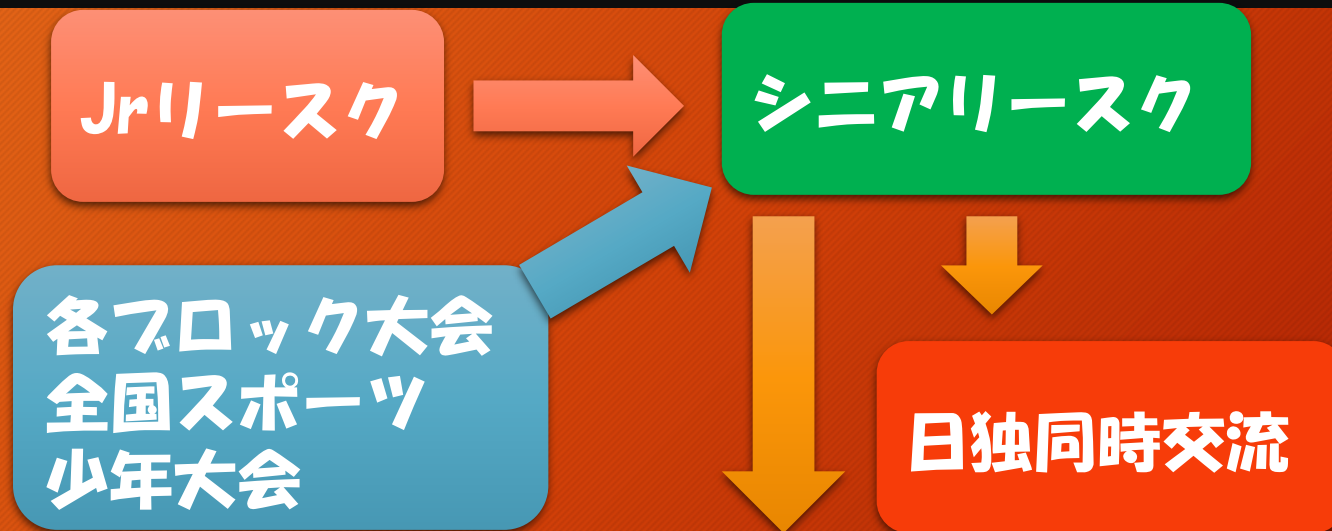
地域から必要とされる活動をするのが総合型地域
スポーツクラブの質を高め、活動を継続できる



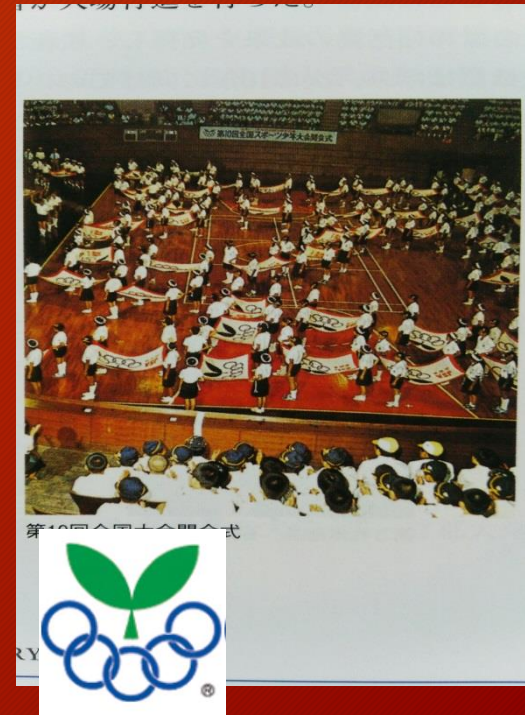
日本スポーツ少年団の人材育成システム



全国スポーツ少年大会 1963年～現在も継続中
シニアリーダースクール 1968年～現在も継続中
1977年 日本スポーツ少年団リーダー制度確立
各都道府県主催ジュニアリーダースクール開始
日独同時交流 1974年～現在も継続中



公認スポーツリーダー・認定員

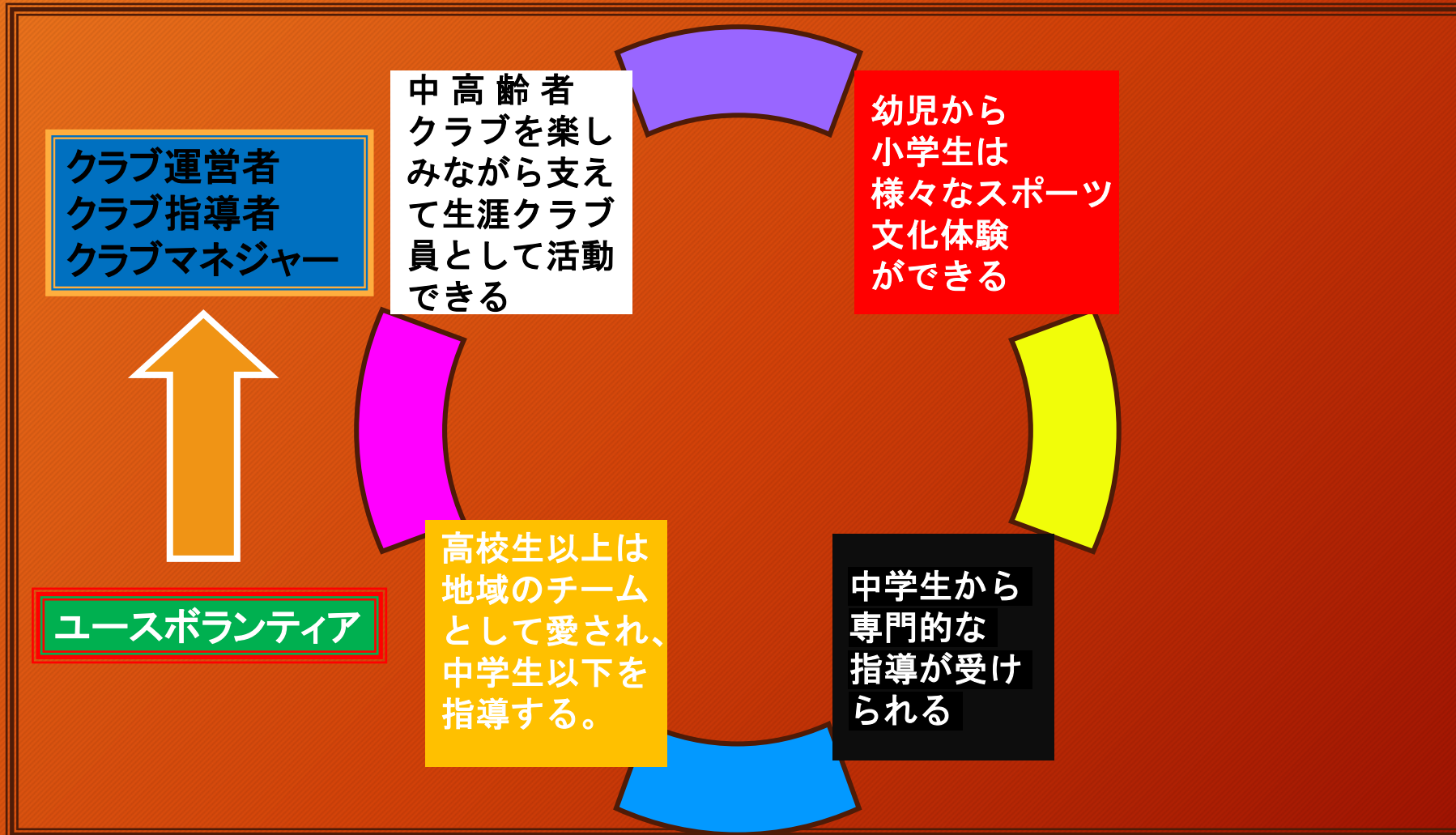


NPO法人新町スポーツクラブ活動理念



- ① 青少年の健全育成と子どもものの体力向上
- ② いつまでも元気で活動的な中高齢者育成
- ③ 国際国内交流による地域愛の育成
- ④ 地域で育って地域で役立つ心がある人の育成

新町スポーツクラブライフサイクル



新町スポーツクラブ
組織図 (2018. 4. 1)

NPO法人 新町スポーツクラブ理事会

NPO法人新町スポーツクラブ育成協議会



クラブマネジメント部
(事務局)

新町地域スポーツ推進委員

ユースボランティア部門

直轄運営教室・チーム部門

既存団体部門

がんサロン運営支援
子育て相談運営支援

幼児・低学年向け外遊び教室

中高齢者向け貯筋体操教室

ベビーダンス教室

ダンス教室

陸上教室

フェニックス(ミニバスチーム)

バスケットボール教室

バレーボール教室

サッカー教室

高崎新町エポリススタサッカークラブ

新町なぎなたクラブ

新町剣道クラブ

新町SVCスポーツ少年団

和太鼓会 しのぶ会

新町空手道クラブ

NPO法人新町スポーツクラブとドイツ交流



- 平成9年度から日本体育協会(当時)からスポーツ少年団を核として総合型地域スポーツクラブの育成モデル地区指定を受けたことで設立準備を開始して平成12年11月に群馬県初の総合型地域スポーツクラブとして設立
- スポーツ少年団は、昭和42年に設立して昭和56年・昭和61年に日本スポーツ少年団の日独同時交流において、西ドイツの青少年を受入、また、日独同時交流派遣事業で多くの青少年を西ドイツへ派遣していた。平成5年には、スポーツ少年団海外指導者研修事業へ小出が派遣され3週間、ドイツにおける青少年スポーツについて学んだ
- 平成5年の指導者交流を縁にして、平成11年度から新町スポーツクラブとニュルンベルク市スポーツユースの独自定期青少年交流事業を開始した
- 2019年8月第8回ニュルンベルク市青少年国際交流受入事業を実施予定

NPO法人新町スポーツクラブ ドイツ ニュルンベルクスポーツ ユーгент青少年交流事業

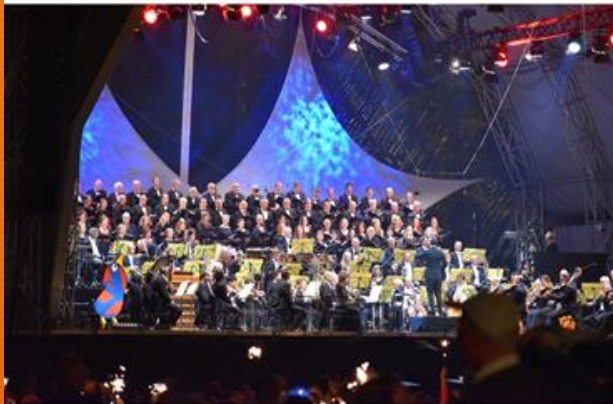
【事業概要】

ニュルンベルク市相互青少年交流事業は、ホストファミリー形式で行い両国の生活・スポーツ文化を理解し合う機会としています。また、今後日本におけるスポーツクラブ文化を担う人材育成事業です。地域で地域のために働ける人材育成事業です。



新町を訪問 → ニュルンベルクを訪問 → 休みの年 3年を繰返す
スポーツ・歴史・文化を相互に学ぶ青少年交流です！！





ホストファミリーと対面 Von Angesicht zu Angesicht



ドイツのスポーツクラブについて



誤った情報が伝達されていませんか



- ドイツのスポーツクラブは、全て総合型地域スポーツクラブで自主自立している。
有償のクラブマネージャーも存在している。
- クラブは、自主自立だから行政機関からの補助金はない。
- クラブの指導者のほとんどが謝金を受け取っている有償ボランティアである。

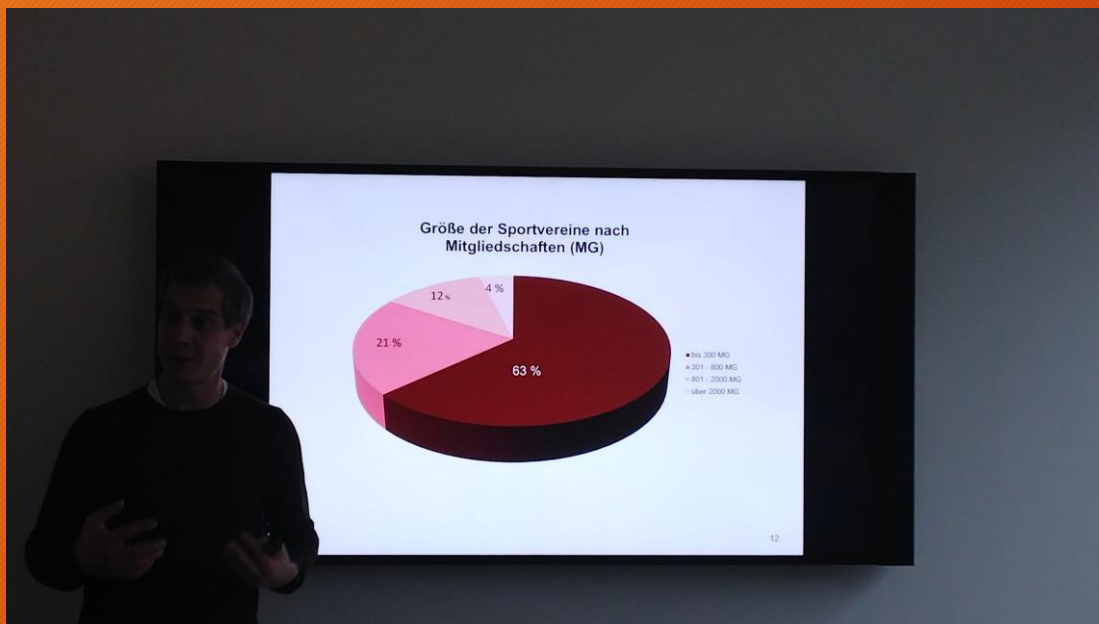
ドイツオリンピックスポーツ連盟の動き



ドイツにおけるクラブ規模とは



ドイツ連邦共和国



会員数

~300人	63%
301~800人	21%
801~2,000人	12%
2,000人~	4%

約8割のクラブは無償の役員がボランティアで運営

わずか4%のクラブ
2,000人を超えるクラブには専従がいる。プロのクラブでは、サポーターが会員に含まれる

2017年現在ドイツには9万少々のスポーツクラブがあり、会員数は2,740万人いる。戦後から8倍に増えている。27歳~40歳の割合が少ない。

ヘッセン州スポーツ連盟の活動



ヘッセン州へのロト(スポーツくじ)の使用方法



- ドイツ・ロトからもらう2,000万€のうち、800万€はクラブへ支出し、800万€がヘッセン州レベルの56ある種目別競技団体へ支出(基本金として同額支給)。200万€(うち半分はクラブからの預り金)は安全保険に支出。その他、会員数に乗じて競技団体に出す補助金がある。
- 会員数が2,000名位の種目団体に比べて、サッカーは大きいため、50万€位の補助金がある。
- クラブへ支出している800万€の多く、有資格指導者の活動費に対する補助金である。
- 現在、対象指導者は、約26,000人(資格保有かつ実技の指導者)。1人1時間1.17€(自治体やクラブがプラスすることがある)、有資格者へ年間440万€が支出されている。約380万時間の活動

ヘッセン州におけるクラブ登録とは



- スポーツクラブでは、子どもと大人は違うが、おおむね2€(年間)を登録費として州スポーツ連盟へ納める。その2€の中から9セントを州からDOSBへ登録費として支出する。
- 2€の登録費の中から安全保険をかけている。安全保険は、金額の半額を州とクラブで支出。クラブは1人当たり年50セント位の安全保険掛け金を支出する。 $50\text{セント} \times 210\text{万人} = 105\text{万€}$
- 毎年1/15に会員数を州スポーツ連盟へ報告(男女別、会員の生まれ年、種目別競技団体を記入して登録)。州スポーツ連盟からDOSBへ提出、DOSBで集計した会員数2,750万人となる。

メルフェルデン・ヴァルドルフ市市長のレクチャー



市長自らスポーツ行政について80分間資料を見る事なくレクチャー
人口3万4千人の市民の内約60%がなんらかのクラブに所属している
市の予算には、30万€(1€:135円換算 40,500,000円)のスポーツ・文化クラブ200団体への
補助金がある。他地域と比べて多いが、市全体の予算からみればわずか。

メルフェルデン・ヴァルドルフ市 クラブ



地下1階地上3階のクラブハウスを会員だけで建設

6部リーグでも観客から入場料を徴収している。観客は800名程度いてビールを飲みながら応援しかも、VIPルームもあってハーフタイムにはコーヒーとケーキが準備されている。

このクラブハウスを管理しているウルフ氏が「たくさんの仕事があつて大変であるが、子どもたちの笑顔や嬉しそうに活動している姿を見ているは自分も頑張ろうと思うのだよ」と話しをしている時の表情が印象的だった。

ニュルンベルク市のスポーツ環境と歴史



ニュルンベルク市の2018年予算



Der SportService – Aufgaben Zuschusswesen

- Verwaltung kommunaler Sportfördermittel
- Beratung

ca. 1,6
Mio. Euro

クラブ支援予算

Betriebszuschüsse

- Mitgliederzuschuss (43.000 €)
- Jugendzuschuss (82.000 €)
- Unterhaltszuschuss (854.000 €)
- Übungsleiterzuschuss (390.000 €)
- Fahrtkostenzuschuss (30.000 €)
- Vereinsentwicklung (190.000 €)
- Sonstige Zuschüsse (32.000 €)

550.000
Euro

施設予算

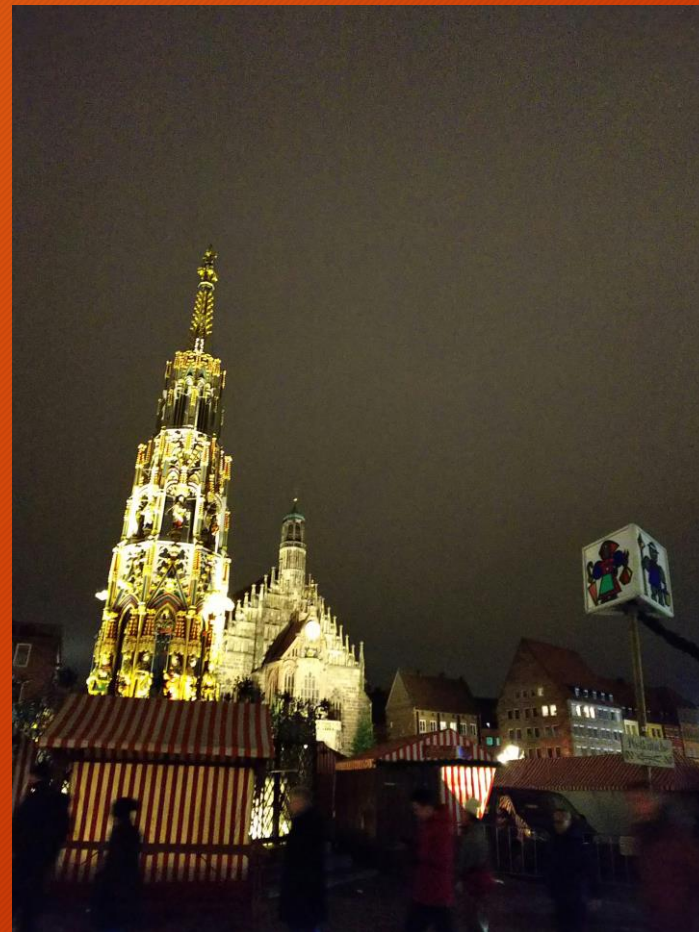
Investitionszuschüsse

- Neubau/Umbau/Erweiterung
- Instandsetzungsmaßnahmen
- Anschaffung von Geräten zur Nutzung und zum Unterhalt der Vereinssportanlage

Zuschüsse für schwimmsporttreibende Sportvereine: 240.000 €, weitere Zuschüsse: 50.000 €
+ indirekte Förderung der Sportstättennutzung

来年の施設整備
予算を倍増にする
無償ボランティアの
ために別の予算を
準備する

ニュルンベルク市のスポーツサービス担当者プロ



ニュルンベルク市では3つのクラブが合併

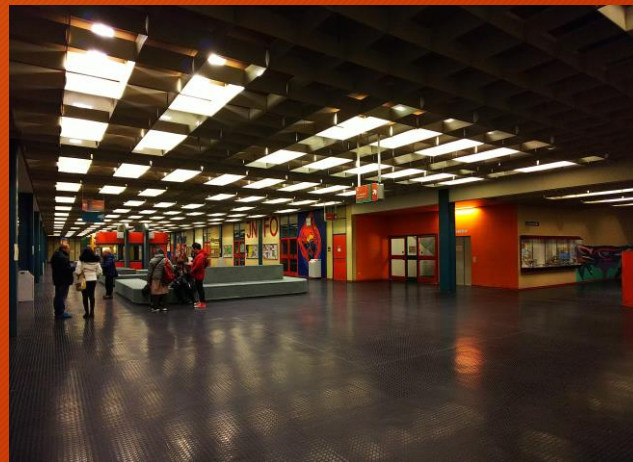


3つのクラブが合併して運営している施設



クラブで経営しているスポーツ幼稚園 & 学童保育施設

ニュルンベルク市のベルトルト・ブレヒト校 (スポーツエリート)学校



スポーツエリート学校とは



- 2012年から、スポーツエリート校としてDOSBより認定された。ドイツ全土に38校のスポーツエリート校があり、バイエルン州にはアルペン関係が、ミュンヘン・ニュルンベルク市には夏の種目のエリート校がある。
- スポーツエリート校認定は、ドイツのスポーツを強化することが目的のため、国のプロジェクトの一環となる。
- 施設は、サッカー場、陸上競技場、ビーチバレー場、体育館7つ(現在は5つ。新しく2つ増える)、パワーレーニングジム(マークも利用。協会からコーチが来て指導あり)と体操の部屋がそれぞれ2つある。

スポーツエリート校の目的・目標



- ① トップスポーツ選手の養成・強化(ナショナルチームレベル)
- ② 本当のタレントのある子ども達(スポーツエリート選手)の養成
- ③ スポーツと学業の両立できる環境・条件づくり
- ④ 子ども達が強化対象のため、子ども達がスポーツの楽しみを失わないようにする

- この学校には3つのカテゴリー(高等学校(ギムナジウム)・実科学校・中学校(卒業資格をもらえる))があり、3つのカテゴリーのある学校はドイツ国内3カ所だけである。
- 高校卒業後、大学や職業学校へ行くが、この学校の有利な点は、勉強・成績がついていけない場合、実科学校へ移行可能な点である。スポーツはそのまま継続できる。
- 教員は、通常、州が養成して雇用する。

ここでは実科学校と中学校の教員は州で、ギムナジウムは市が養成し雇用している。

会員12,000人の大型クラブは学校を支援



ドイツの課題



- 各州の学校(基礎学校・ギムナジウム)の全日制への移行
- ゴールデンプランで建設した施設の老朽化特に屋内プール施設の老朽化が深刻
- 移民難民の受入
- 無償ボランティア希望者の減少



ドイツのスポーツクラブと スポーツユースの関わり

ドイツでは、スポーツクラブの
青少年層をユースという
組織にしているだけである。

今後のスポーツ少年団は、
本家のような在り方が必要
であり、いつまでもスポーツ
クラブとスポーツ少年団の
区別をしていては、双方に
とってよくない結果となる。

6歳から27歳までを
ドイツスポーツユース

ドイツの青少年へ
どこがスポーツユースなの？
このような質問しても答えられない！

彼らの年齢は、私の〇〇スポーツ
クラブの会員

生まれた時から親のクラブと同じクラブへ入会

スポーツ少年団も総合型地域ス
ポーツクラブもドイツのスポーツ
システムを模範としている。
つまり、日本のスポーツ組織も
左図のように
将来なるべきと提案する。

ドイツのスポーツ界は常に挑戦している

